

全国美術館会議による救援・支援活動 平成 24 年度報告

村上 博哉 全国美術館会議事務局 企画担当幹事/国立西洋美術館 学芸課長

0. はじめに

全国美術館会議（以下「全美」と記す）が平成 24 年度に実施した文化財レスキュー関連の事業は、平成 23 年度に宮城県および岩手県の被災施設から救出して以来一時保管を続けている作品・資料を対象とするものであり、今年度に入って新たな救出活動には参加していない。前年度には、津波に襲われた施設内での作品の梱包・運搬と、設備が十分に整っていない一時避難所での応急処置という、特殊な環境下にスタッフを集中的に動員して行う作業が大きな比重を占めたが、逆に 2 年目の今年度における事業は、本格修復、長期保管に向けての措置、さらに展示公開という、作品の保存に適した安定的な施設環境のもとで行われる活動が中心となった。

また、全美では、救援委員会による文化財レスキュー事業への参加と並行して、被災地域の美術館・博物館の活動に対する支援と、震災から派生した諸問題への重点的な対応を行うため、平成 23 年 11 月に「東日本大震災復興対策委員会」を新たに設置し、独自の救援・支援活動資金の活用による復興支援事業を実施している。平成 24 年に入って、震災からの復興に向けた全美の取り組みは、急を要する「救援」から長期的観点に立った「支援」へと重点が移されていると言えよう。以下に平成 24 年度の活動の概略を報告する。

1. 救出作品・資料の修復、保管

1-1 石巻文化センター所蔵資料

石巻文化センター所蔵資料のうち、全美が救援に携わった美術部門の作品・資料は、平成 23 年 4 月 27～29 日に 1 階収蔵庫から救出し宮城県美術館で約 1 か月にわたり応急処置を行った 214 件、同年 11 月 16～18 日に 2 階展示室および収蔵庫から東北芸術工科大学（山形市）へ移送した 16 件、同年 12 月 1 日に 1 階廊下から搬出した被災ブロンズ彫刻 1 件をあわせ、合計 231 件（約 800 点）で

ある。これらは平成 23 年度末の時点で、保存修復処置を行うため種別ごとに 6 つの施設に分割保管されていた。

東北芸術工科大学	88 件 (彫刻 81 件、日本画 7 件)
宮城県美術館	53 件 (彫刻)
東京藝術大学	32 件 (絵画)
神奈川県立近代美術館	13 件 (絵画)
国立西洋美術館	44 件 (絵画 1 件、素描・資料)
櫻井美術鑄造	1 件 (彫刻)

平成 24 年度には、各保管先において、これらの作品・資料の燻蒸、経過観察、修復等が行われている。

1) 東北芸術工科大学

平成 24 年 4 月 27 日～5 月 2 日、彫刻 88 件のうち大型のもの 9 件、および日本画 7 件について、全美の経費により大学内で燻蒸を行った。9 月 25 日、同大学文化財保存修復研究センターの藤原徹教授研究室により修復処置を終えた彫刻 50 件を宮城県美術館へ移送、同館の収蔵庫にて当分の間保管を行うこととなった。11 月 6 日には、宮城県美術館で前年度に応急処置後同館の屋外倉庫で保管されていた彫刻 15 件を本格修復のため同大学へ移送し、入れ替わりに同大学での処置を完了した彫刻 6 件を同美術館へ移送、収蔵庫に収容した。日本画 7 件については、三浦功美子准教授より状態調査報告書を提出いただき、今後石巻市との協議により同大学へ修復を依頼する予定である。

2) 宮城県美術館

前年度に応急処置を行った彫刻作品の一部が現在も屋外倉庫に保管されているが、愛知県美術館より貸与されている除湿機を利用して宮城県美術館の学芸諸氏が倉庫内の環境管理を行っており、ほぼ安定収蔵と言える状況にある。同美術館の三上満良学芸部長と東北芸術工科大学の藤原教授の統括のもとで、上記のように、応急処置済の作品を屋外倉庫から順次同大学へ送り、入れ替わりに同大学で処置を完了した作品を同美術館で引き取り収蔵庫に収容すると

いう、両者間の連携体制が築かれている。最終的にはすべての作品を同大学で処置した後、石巻市に作品の受け入れ態勢が整うまでの間、宮城県美術館の収蔵庫で保管することが了解されている。

3) 東京藝術大学

平成 23 年 10 月 11 日、救援委員会事務局と全美事務局により、絵画 32 件を一時保管先の国立西洋美術館から東京藝術大学保存修復油画研究室へ移送し、木島隆康教授に同研究室での調査および修復を依頼した。以後平成 24 年度にかけて、木島教授を中心に、同研究室による修復作業が継続されている。

4) 神奈川県立近代美術館

平成 24 年 3 月 16 日、絵画 13 件を一時保管先の国立西洋美術館から神奈川県立近代美術館（葉山）へ移送し、以後平成 24 年度にかけて、石巻および陸前高田の絵画作品の応急処置作業を主導した同館保存修復担当の伊藤由美専門研究員を中心として修復作業が行われた。13 件のうち 12 件は修復完了済であり、残る 1 件も平成 25 年に修復を終える見込みである。

5) 国立西洋美術館

平成 23 年度に宮城県美術館で応急処置を行った絵画・素描・資料等 44 件および絵画の額縁 17 件が、平成 23 年 6 月 30 日から国立西洋美術館の収蔵庫および修復処置室に保管されている。素描・資料 43 件（約 600 点）については、同館紙本保存修復担当の鈴木香里研究補佐員により、1 点ごとの状態記録書の作成が継続されている。なお、平成 24 年 7 月 2～7 日に保管資料 44 件および額縁 17 件の燻蒸を実施した。

6) 櫻井美術鋳造

平成 23 年 12 月 1 日に石巻文化センター 1 階廊下から搬出した被災ブロンズ彫刻 1 件は、同作品を鋳造した（有）櫻井美術鋳造（東京都）において全美の経費により修復が行われ、修復完了後の平成 24 年 10 月 12 日に宮城県美術館へ移送。東北芸術工科大学で修復を行った彫刻作品と同様、同美術館にて保管されている。

以上の処置・移送の結果、平成 24 年度末における石巻文化センター作品・資料の保管状況は以下のとおりとなる。

東北芸術工科大学	47 件 (彫刻 40 件、日本画 7 件)
宮城県美術館	95 件 (彫刻)
東京藝術大学	32 件 (絵画)
神奈川県立近代美術館	13 件 (絵画)

国立西洋美術館	44 件 (絵画 1 件、素描・資料)
---------	------------------------

1-2 陸前高田市立博物館所蔵資料

陸前高田市立博物館所蔵の絵画・書作品 156 件(336 点)の一次レスキュー（同館からの搬出、一時避難先への移送）は、平成 23 年 7 月 12～14 日、岩手県・陸前高田市教委、救援委員会事務局、および全国から集まった全美会員館の学芸員 13 名の共同により実施された。これらの作品は、一時避難先の旧衛生研究所（盛岡市）で同年 8 月上旬に燻蒸、8 月 21 日から 9 月 25 日にかけて全美会員館の学芸員 48 名と外部修復家等の協力により応急処置を施した後、9 月末に岩手県立美術館へ搬入され、陸前高田市から同館への寄託手続きがとられた。安定収蔵の段階に入ってから約 1 年半が経過しており、近く東京国立博物館による調査を経て、文化庁の「被災ミュージアム再興事業」補助金を利用した本格修復の計画が立てられることとなっている。

1-3 陸前高田市立広田中学校所蔵絵画

津波で水損した陸前高田市立広田中学校の油彩画 4 点は、同市の旧生田小学校にて燻蒸後、平成 23 年 11 月 15 日に萬鉄五郎記念美術館（花巻市）へ移送、さらに同年 11 月 25 日に三重県立美術館へ運ばれ、同館にて修復が行われた。修復作業は三重県立美術館の田中善明学芸課長を中心に、同館、岐阜県美術館、岐阜県現代陶芸美術館の学芸員とボランティアスタッフ（三重県立美術館ボランティア檜の会、JAMM 研究会）が共同で実施した。燻蒸後の泥やカビ胞子の除去、破れや画面の変形修正、剥落部分の接着や補彩、裏板追加などの処置を行い、展示可能な状態へと復旧した。

油彩画 4 点は平成 24 年 10 月 16 日に修復を完了、11 月 29 日に萬鉄五郎記念美術館へ戻され、当分の間同館にて保管されることとなった。次項に記すように、平成 25 年 2 月には同館で 4 点の展示公開が行われた。

2. 救出作品・資料の展示公開

平成 24 年度には、救出作品・資料を保管する全美会員館のうち 4 館において、本格修復あるいは応急処置を終えた作品の展示公開が以下のように行われた。これらの展示事業は、震災から蘇った作品そのものの公開に加え、全

美と救援委員会による救援活動の状況、作品の救出から応急処置・修復に至る過程を、解説パネルやパンフレットを通じて紹介することにより、文化財レスキュー事業の具体的な成果を広く一般に知らしめる機会となっている。

① 宮城県美術館「小企画展 高橋英吉」(平成24年9月29日～平成25年4月14日)

石巻文化センターが所蔵する石巻市出身の彫刻家、高橋英吉(1911～1942年)の木彫作品20点を公開。展示作品は、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターにて修復を完了した後、宮城県美術館に保管されているものの一歩である。

② 神奈川県立近代美術館(葉山)「東日本大震災による被災美術品修復報告(石巻文化センター所蔵作品)」(平成25年1月26日～3月24日)

神奈川県立近代美術館にて修復作業が進められている、石巻文化センターの油彩画13点を展示。うち12点は修復完了、1点は修復処置中の状態で展示された(写真)。

なお、同展開催中、画家・芳賀仨(1909～1963年)のご遺族から美術館に連絡があり、展示作品の題名と制作年代について正確な情報を得られたほか、作者不明であった絵画1点も芳賀仨の作品であることが判明した。作品の公開が情報の入手につながったのは喜ばしいことである。

③ 岩手県立美術館「常設展第4期特集展示 救出された絵画たち—陸前高田市立博物館コレクションから—」(平成25年2月2日～4月14日)

岩手県立美術館に保管されている陸前高田市立博物館の所蔵作品から、24点を展示。

④ 萬鉄五郎記念美術館「蘇る被災美術品—陸前高田市立広田中学校の場合—」(平成25年2月9日～2月24日)

三重県立美術館にて修復完了後、萬鉄五郎記念美術館に保管されている、陸前高田市立広田中学校の油彩画4点を展示。

3. 全美総会特別セッション「文化財レスキュー事業の経過とこれから」の開催

5月28日、大塚国際美術館(徳島県)において開催された第61回全国美術館会議総会の関連事業として、上記の特別セッションを実施した。救援委員会事務局長の岡田健氏(東京文化財研究所)による基調報告、全美の救援事業において中心的役割を果たした浜田拓志(和歌山県立近

代美術館副館長)、伊藤由美(神奈川県立近代美術館専門研究員)、および筆者による活動報告に続き、小谷竜介氏(宮城県教育庁文化財保護課技術主査)、本多文人氏(岩手県陸前高田市立博物館長)、藤原徹氏(東北芸術工科大学教授)をパネリストに加え、山梨俊夫(国立国際美術館長)の司会によりパネルディスカッションを行った。聴講者は全美会員館のうち134館の職員等、237名である。このセッションの内容は、『第61回全国美術館会議総会報告書』(平成24年11月発行)に掲載されている。

4. その他

本稿では文化財レスキューに直接関係する全美の事業について報告したが、全美ではこのほか、「東日本大震災復興対策委員会」の企画により、救出作品の修復、被災美術館の設備復旧・再開支援、震災復興をテーマにした展覧会やワークショップ等への支援、被災美術館・博物館の総合調査、全美としての文化財レスキュー事業記録集の編集など、幅広い復興支援活動に取り組んでいる。それらの活動の詳細については、全国美術館会議ホームページ(<http://www.zenbi.jp/>)の「東日本大震災 救援・支援活動特設サイト」を参照していただきたい。

なお、全美による救援・支援活動は、平成23年5月に設置し現在も継続している「救援・支援活動募金」、関係諸団体からの寄付金、および平成23年10月5～9日に東京美術倶楽部において開催した「東日本大震災復興チャリティ・オークション 今日的美術展」(全国美術商連合会および文化庁との共催)の収益金により実施されている。救援委員会の活動収束後も全美による活動は継続されるため、全美の救援・支援活動を網羅した独自の報告書を、しかるべき時期に発行する予定である。これまでの多方面からのご協力・ご支援に深謝するとともに、今後も一層のご支援を賜るようお願い申し上げたい。



写真 神奈川県立近代美術館（葉山）「東日本大震災による被災美術品修復報告（石巻文化センター所蔵作品）」展示室